ふじいでら歴史紀行 238

市制施行60周年！ ふじいでらの近現代を語る 5 藤井寺市の誕生と、地域のあゆみ

今から60年前、昭和41（1961）年11月1日に、藤井寺市は誕生しました。

明治時代の初めに14あった村々の合併を経て、市域が道明寺村と藤井寺村という2つの村となったいきさつは、以前にお話しした通りです。ここでは、2つの村となってから藤井寺市が誕生するまでのあゆみを見ていこうと思います。

大阪鉄道の道明寺・大阪天王寺間が開業した大正12（1923）年の住民の数は、『大阪府統計書』によると、道明寺村が4897人、藤井寺村が4165人でした。やがて昭和2（1927）年に藤井寺経営地の分譲が開始されますが、その少し後、昭和4（1929）年の大阪府統計書に記載された住民の数は、道明寺村が5848人、藤井寺町が5111人と、わずか6年間で、それぞれ千人ほども人口が増加していることが分かります。鉄道の延伸、宅地開発といった当時の状況が、地域の発展、人口の増加に影響を与えたことを読み取れると思います。

そして藤井寺村は、昭和3（1928）年、藤井寺球場、藤井寺教材園といった新たな施設が完成する中で、町制施行して藤井寺町となりました。

昭和26（1951）年には、道明寺村が町制施行により、道明寺町となります。

さて、昭和28（1953）年に町村合併促進法が施行されます。この法律は小さな町村を再編成して適正な規模の町村をつくるために、町村合併を積極的に推進しようとするものでした。そして政府は、それまでの町村の数を約3分の1にするといった計画を立てます。近年では、平成11（1999）年から平成22（2010）年にかけて行われた政府主導の大規模な市町村合併、平成の大合併が記憶に新しいところですが、同様のことは過去にも行われていたのです。

周辺の複数の町村でも合併が進みましたが、藤井寺町、道明寺町とも、当初から両町のみの合併を希望していました。やがて、両町の合併は認められ、昭和34（1959）年4月、藤井寺道明寺町が発足します。合併時の住民の数は、2万947人でした。

昭和35（1960）年1月1日付で、藤井寺道明寺町は、町の名前を美陵（みささぎ）町に変更します。美陵という町名は、たくさんの古墳がある町の特色を表すのにふさわしい名だと、多くの人が感じたことでしょう。

ところで、美陵町は公募により町章を制定しました。昭和40（1965）年のことです。国府（こう）遺跡から見つかった縄文時代の玦状耳飾（けつじょうみみかざ）りを図案化し、中央部に前方後円墳の形を組み入れたデザインで、現在の藤井寺市の市章として受け継がれています。また、同年10月には、美陵町役場の新庁舎が完成しました。後に藤井寺市役所の庁舎として、平成7（1995）年に現庁舎が完成するまで長年にわたり使用されました。

美陵町は、昭和41（1966）年に人口が4万人を超え、市制を施行することになりました。市の名称については、複数の候補名の中でどれが良いか、全町民へのアンケートが行われました。その結果、「藤井寺市」が選ばれたのです。古代からの法燈を受け継ぐ葛井寺（ふじいでら）、近鉄藤井寺駅、藤井寺球場といったように広く知られた名前であったことから、多くの人に選ばれたのでしょう。

こうして、昭和41（1966）年11月1日、地域の幾多のあゆみのうえに、藤井寺市として新たな歴史のページを開いていくことになったのです。発足時の人口は、4万781人でした。

（文化財保護課　新開　義夫）



▲昭和40年にできた美陵町役場新庁舎（後の藤井寺市役所旧庁舎、「カメラ風土記ふじいでら」より）